

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																											
日本工学院専門学校	昭和51年7月1日	前野 一夫	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																											
学校法人 片柳学園	平成25年3月1日	千葉 茂	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111																																											
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																										
工業	工業専門課程	電子・電気科 電子工学コース オーディオ家電コース	平成22年文部科学省 告示第153号	-																																										
学科の目的	常に新鮮なる人材を要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身に付け、職業人としての自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を養成する。電子工学コースでは、総務省による無線技術者養成の認定を受けており、実務に関する知識、技術及び技能を教授し、無線通信技術者及び電子回路設計・製作のできるエンジニアの養成を目的としている。																																													
認定年月日	平成26年3月31日																																													
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																																								
2年	1710時間	1350時間	0時間	840時間	0時間	0時間																																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																									
240人	248人	18人	8人	14人	22人																																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定																																										
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月30日～9月2日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月18日～3月31日	卒業・進級条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。	課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ㈱NHKアイテック、JVCケンウッドエンジニアリング㈱、コムシモパイル㈱、㈱アルプス技研、日立コンシューママーケティング㈱等 ■就職指導内容 就職ガイダンス等において履歴書やエントリーシートの書き方の説明を実施。随時、個別面談を行う。 また就職模擬試験(筆記試験)と模擬面接を実施。 ■卒業者数 115 人 ■就職希望者数 110 人 ■就職者数 110 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数:2人(東京工科大学工学部電気電子工学科2年次編入) (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第三級海上特殊無線技士</td> <td>①</td> <td>33</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>第二級陸上特殊無線技士</td> <td>①</td> <td>33</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>第一級陸上特殊無線技士</td> <td>①</td> <td>33</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>第一級陸上無線技術士</td> <td>③</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>33</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>家電製品エンジニア(AV情報家電)</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>家電製品アドバイザー(AV情報家電)</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>スマートマスター</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	第三級海上特殊無線技士	①	33	32	第二級陸上特殊無線技士	①	33	33	第一級陸上特殊無線技士	①	33	33	第一級陸上無線技術士	③	7	4	ビジネス能力検定3級	③	33	30	第二種電気工事士	③	3	3	家電製品エンジニア(AV情報家電)	③	9	3	家電製品アドバイザー(AV情報家電)	③	3	2	スマートマスター	③	3	2
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																											
第三級海上特殊無線技士	①	33	32																																											
第二級陸上特殊無線技士	①	33	33																																											
第一級陸上特殊無線技士	①	33	33																																											
第一級陸上無線技術士	③	7	4																																											
ビジネス能力検定3級	③	33	30																																											
第二種電気工事士	③	3	3																																											
家電製品エンジニア(AV情報家電)	③	9	3																																											
家電製品アドバイザー(AV情報家電)	③	3	2																																											
スマートマスター	③	3	2																																											
中途退学の現状	■中途退学者 12名 平成29年4月1日時点において、在学者266名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者254名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。		■中退率 4.5%																																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 片柳学園創立70周年記念奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																													
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/technology/electronic/																																													

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」としては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電子技術者の養成を目的とし、電子機器の設計・製造・保守を手がける企業や情報通信・家電製品技術にかかわる団体より、最新技術・授業内容・設備状況の助言を受け、業界が求める人材像の把握と学生時代に習得すべき知識や技術を整理し、授業カリキュラムや授業・実習へ反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
遠藤 正明	一般財団法人 家電製品協会	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	①
天野 祐一	東洋エンジニアリング株式会社	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
伊藤 晋之	一幸電子工業株式会社	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
鳥居 陽介	パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
川村 公二	日本工学院専門学校 電子・電気科 科長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年3月22日 10:00～12:00

第2回 平成30年8月29日 10:00～12:00

第3回 平成31年3月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

AV信号の伝送に使用されるHDMIについて、画像解像度とケーブル長の関係についての実験の提案を受け、実習課題に盛り込んだ。また、Raspberry PiやLinuxよりも多くの種類のセンサーの実習を授業に取り入れることをアドバイスいただき、実習内容に変更を加えた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

電子・電気分野に関する実践的な実習や演習を行なうため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、又は技術指導などを受けられる企業を選定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ホームエレクトロニクス実験において、委員の提案をもとに、HDMIの通信距離と解像度、伝送距離の延長方法についての項目を実験に追加した。また、プログラミング実習やマイクロコンピュータの授業においても、委員の提案をもとに、ArduinoからRaspberry Piまで幅広く行っていた実習を、Arduinoに特化して数種類のセンサーを使用した実習内容に変更した。(Raspberry PiやLinuxについては、興味のある学生に対して授業時間外に特別ゼミを開講して教えることにした。)

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
エレクトロニクス通信実験	携帯電話などの通信機器を用い、通信技術の実際を学びます。	(株)サンライズラボ
電子回路製作実習	増幅回路や発振器、マイコンを応用した回路の設計・製作を行います。	(株)サンライズラボ
卒業製作	アンテナの設計・製作、マイコンを使用した回路製作、電子回路の応用製作などのものづくりを行い、製作した製作品品に関する発表を行います。	(株)サンライズラボ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

企業主催のセミナー、展示会、研修会に参加し、最新の知識、技術動向を確認した。
 ・平成29年8月1日実施 TEPIA先端技術館「AI」、「IoT」技術の動向について見学・研修 (連携企業:TEPIA先端技術館)
 IoT、AIなどを応用した警備システムや個人認証機器の見学体験を行った。また、SONY MESHを用いたプログラム体験を通じ、プログラミング教育について体験し、今後の教授方法や実習・教材についての発展性について学んだ。
 ・平成29年10月6日実施 CEATEC JAPAN 2017 展示会
 ・平成29年11月15日実施 Inter Bee 2017 展示会

② 指導力の修得・向上のための研修等

講演会、模擬授業やアクティブラーニング等の研修を実施し、指導力の向上を図った。
 ・平成29年3月29日10:00~12:00 (株)KEIアドバンス様による非認知スキルの測定と現在の学生状況についての講演。
 ・平成29年8月1日実施 ①テーマ:参加者の視点に立った効果的なプレゼンテーション ②テーマ:学生を引きつける効果的な授業 (連携企業:富士ゼロックス株式会社)
 学生への教授法の情報共有化をすると共にすぐれた教授法を各学科より紹介し、勉強会を行った。
 教員が富士ゼロックス社と行った共創プロジェクトでの研修を踏まえて、アイデアソンへの取り組み方やコラボレーションへの繋げ方を講義した。また、各学科からも先進的な教授法や教育法の発表があり、様々研鑽を積む中で得られたIoT技術(電子・電気科)やタブレットを用いた授業法(自動車整備科)、品質管理への取り組み(応用生物学科)などの発表も同時に行われた。
 ・平成30年3月28日実施 教育設計図の見直し、及び学科の将来(中・長期)に向けた検討
 ・平成30年8月1日実施 AI・IoT時代に向けた教育設計図の改訂検討

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

定期的に行われる技術セミナーや展示会に参加し、最新技術動向を確認。また、第一線で活躍する技術者を招いて研修会を実施する。
 平成30年8月23日実施 三菱電機『暮らしと設備の総合展』(連携企業:株式会社三菱電機ライフネットワーク)
 平成30年10月19日実施 CEATEC JAPAN 2018展示会
 平成30年11月16日実施 Inter Bee 2018 展示会
 平成31年3月 パナソニックセンター 展示会 (連携企業:パナソニック システムネットワークス株式会社)

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アクティブラーニング研修」(連携企業:アビット株式会社)
 期間:平成30年11月28日(水)または12月19日(水)
 内容:アクティブラーニング型授業が求められている時代背景を把握し、アクティブラーニング型授業とは何か理解する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	IT企業等委員/ 卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興 協会)教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン 企業等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務 局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセ ンター長 進路指導副部長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL:http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_jikohyouka_neec.pdf

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_kankeishahyouka_neec.pdf

公表時期:2018年9月11日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/30_opendata_neec.pdf

授業科目等の概要

(工業専門課程 電子・電気科 電子工学コース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・後	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザイン1	就職に必要なマナーや一般常識などを学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ実習1	集中授業としてスキー、スノーボード教室等を実施します。	1・後	30	1			○		○	○		
		○	英語1	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○				○
○			サイエンス	サイエンスの知識として、物体の運動や力などについて学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
○			テクノロジー基礎1	テクノロジーの基礎知識や計算手法について学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
○			テクノロジー基礎2	ものづくり解析などに必要な数学を学びます。	1・後	60	4	○			○			○	
○			デジタル回路1	2進法や基礎論理回路、各種デジタル回路について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			電気回路1	直流回路などの電気回路について学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
○			電気回路2	交流回路の考え方、法則、計算方法などについて学びます。	1・後	60	4	○			○			○	
○			電子回路1	アンプなど電子機器の原理や動作について学びます。	1・後	60	4	○			○			○	

		○	ビデオ技術	画像や映像の記録、伝送の方法について学びます。	1・前	30	2	○			○	○					
		○	オーディオ技術	スピーカやマイクロホン、アンプなどオーディオ機器について学びます。	1・前	30	2	○			○	○					
		○	家電製品技術	テレビ、地上デジタル、HDD・BDレコーダなど家電製品技術を学びます。	1・後	60	4	○			○	○					
		○	資格対策講座1	各種資格取得のためのバックアップ講座です。	1・前	60	4	○			○	○					
		○	資格対策講座2		1・後	60	4	○			○	○					
○			電子工作実習1	オーディオアンプなど簡単な回路の組立を通じ、電子技術について体験的に学びます。	1・前	60	2				○	○	○				
○			電子工作実習2	イコライザーアンプなど回路の組立を通じ、電子技術について体験的に学びます。	1・後	60	2				○	○	○				
○			プログラミング実習	C言語プログラミングを行います。	1・後	60	2				○	○	○				
○			エレクトロニクス基礎実験	デジタル回路、パルス回路、アンプなど電子回路の動作を学びます。	1・後	60	2				○	○	○				
○			テクノロジー実習	部品や簡単な回路の動作を実験を通じ学びます。	1・前	60	2				○	○	○				
○			パソコン実習	WindowsやOffice、インターネット利用上のマナー、エンジニアとしてのPCの利用方法を学びます。	1・前	60	2				○	○					○
		○	インターンシップ1	企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。	1・通	30	1				○	○	○				
○			キャリアデザイン2	社会人として必要な知識や自己表現力などを学びます。	2・前	30	2	○			○	○					
		○	スポーツ実習2	スキー&スノーボード教室などを実施します。	2・後	30	1				○	○	○				

		○	英語 2	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の応用を学びます。	2・前	30	2	○			○									
○			電子回路 2	発振回路や電源回路、オペアンプを使用した回路など、様々な電子機器の動作について学びます。	2・前	60	4	○			○			○						
○			マイクロコンピュータ	マイクロコンピュータのしくみや動作を学びます。	2・前	60	4	○			○			○						
○			光エレクトロニクス	光通信や半導体レーザなどについて学びます。	2・後	30	2	○			○			○						
○			通信システム 1	携帯電話などにも用いられる通信技術を学びます。	2・前	30	2	○			○									○
○			通信システム 2	通信技術の応用、実際の通信機器について学びます。	2・前	30	2	○			○			○						
○			計測技術	電子機器の計測方法、計測器の原理などについて学びます。	2・後	30	2	○			○			○						
		○	電子回路設計	増幅回路や発振器などの設計方法を学びます。	2・前	30	2	○			○			○						
		○	電子応用技術	カーナビゲーションシステムなど電波応用技術など様々な電子技術の活用法を学びます。	2・後	60	4	○			○			○						
		○	オーディオ・ビデオ機器	ホームシアターなど、デジタルAV技術を学びます。	2・前	60	4	○			○			○						
		○	スマート家電技術	スマートハウスなどの技術を中心に、家電製品エンジニア・スマートマスターを目指します。	2・後	60	4	○			○			○						
		○	資格対策講座 3	各種資格取得のためのバックアップ講座です。	2・前	30	2	○			○			○						
		○	資格対策講座 4		2・後	60	4	○			○			○						
		○	資格対策特別講座	様々な資格対策を行います。	2・前	30	2	○			○			○						

○		エレクトロニクス通信実験	スマートフォンなどで使われる通信技術の実際を学びます。	2・後	30	1			○	○			○	○
	○	電子回路製作実習	増幅回路や発振器などの設計・製作を行います。	2・前	60	2			○	○			○	○
		○	デジタルテクノロジー実験	デジタルフィルタなどDSPの基礎などのデジタル技術を実験します。	2・前	60	2		○	○		○		
		○	家電機器修理実習	テレビなど家電製品の故障発見・対応などについて実習します。	2・前	30	1		○	○		○		
		○	ホームエレクトロニクス実験	ホームシアターや地デジなどの技術を実習します。	2・後	60	2		○	○			○	
	○		卒業製作	ものづくりを通じ、2年間で習得した技術の集大成します。	2・後	120	4		○	○			○	○
		○	インターンシップ2	企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。	2・通	30	1		○		○		○	
合計				46 科目	2,190 時間(118 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1,110時間(61単位)、選択科目600時間(29単位)以上を取得し、合計1,710時間(90単位)以上を取得すること。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
日本工学院専門学校	昭和51年7月1日	前野 一夫	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 片柳学園	平成25年3月1日	千葉 茂	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	電子・電気科 電気工学科	平成22年文部科学省 告示第153号	-																							
学科の目的	常に新鮮な人材を要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身に付け、職業人としての 自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を養成する。電子工学科では、総務省による無線技術者養成の認定を受けており、実務に関する知識、技術及び技能を教授し、無線通信技術者及び電子回路設計・製作のできるエンジニアの養成を目的としている。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1770時間	1290時間	0時間	180時間	300時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
240人	248人	18人	8人	14人	22人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定																							
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月30日～9月2日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月18日～3月31日		卒業・進級 条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。		課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 日本空港テック/株、明治神宮外苑、株NHKビジネスクリエイト ■就職指導内容 就職ガイダンス等において履歴書やエントリーシートの書き方の説明を実施。随時、個別面談を行う。 また就職模擬試験(筆記試験)と模擬面接を実施。 ■卒業者数 115 人 ■就職希望者数 110 人 ■就職者数 110 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td>③</td> <td>46 人</td> <td>40 人</td> </tr> <tr> <td>ガス溶接技能講習</td> <td>③</td> <td>44 人</td> <td>44 人</td> </tr> <tr> <td>低圧電気取扱者特別教育</td> <td>③</td> <td>44 人</td> <td>44 人</td> </tr> <tr> <td>職業安全危険作業特別教育</td> <td>③</td> <td>46 人</td> <td>46 人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 電気主任技術者の認定コースのため卒業後、所定期間の実務経験を積むことにより第二種・第三種電気主任技術者を取得できる。				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	第二種電気工事士	③	46 人	40 人	ガス溶接技能講習	③	44 人	44 人	低圧電気取扱者特別教育	③	44 人	44 人	職業安全危険作業特別教育	③	46 人	46 人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
第二種電気工事士	③	46 人	40 人																								
ガス溶接技能講習	③	44 人	44 人																								
低圧電気取扱者特別教育	③	44 人	44 人																								
職業安全危険作業特別教育	③	46 人	46 人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 12 名 平成29年4月1日時点において、在学者266名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者254名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。		■中退率 4.5 %																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 片柳学園創立70周年記念奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	https://www.nec.ac.jp/department/technology/electronic/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」としては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電気主任技術者の養成を目的とし、電気設備管理業務を実践する企業・団体より最新技術や設備状況の助言を受け、業界が求める人材像の把握と学生時代に習得すべき知識や技術を整理し、授業カリキュラムや授業・実習へ反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
久米 伸一	一般財団法人省エネルギーセンター 省エネ支援サービス本部	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	①
並河 宏明	株式会社朝日工業社	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
磯 剛規	株式会社城南サービス	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
川村 公二	日本工学院専門学校 カレッジ長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
渡邊 和之	日本工学院専門学校 主任	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年度の開始時期、夏季休暇に開催(年2回)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年8月31日 10:00～12:00

第2回 平成30年3月23日 10:00～12:00

第3回 平成30年3月23日 10:00～12:01

第3回 平成30年8月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ガスエネルギー関連科目にどれほどのボリュームを持たせるか方向性を決める必要があるのではとの意見をいただいた。ガスが世間的に注目されているという知識を植え付けるため、対応いただく企業の温度差、実力差、体力差を考慮する必要はあるが、もっと掘り下げた内容まで実施するようカリキュラムを検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

電子・電気分野に関する実践的な実習や演習を行なうため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、又は技術指導などを受けられる企業を選定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本校の電気設備管理を委託している企業にご協力いただき、特別高圧受変電設備の見学、電気設備点検方法を学ぶよう実践的な実習内容に変更した。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
テクノロジー実習	第二種電気主任技術者認定必須科目 電気回路の基礎や各種測定器などの電気技術に関する知識を、実験を通じて検証します。	(株)城南サービス (有)カド照明設計研究所
基礎実験	第二種電気主任技術者認定必須科目 電気回路、電磁気の基礎や各種測定器などの電気技術に関する知識を、実験を通じて検証します。	(株)城南サービス (有)カド照明設計研究所
電気実習1	第二種電気主任技術者認定必須科目 低圧屋内配線工事の基礎を身に付け、シーケンス回路を実際に配線し、電磁リレー、タイマーリレーの動作を理解し	(株)城南サービス (有)カド照明設計研究所
電気応用実験1	第二種電気主任技術者認定必須科目 モーターや送電システム、照明機器などについて実験します。	(株)城南サービス (有)カド照明設計研究所
電気製図	第二種電気主任技術者認定必須科目 電気機器や屋内配線図などをCADで作成します。また、部品や材料、作業量などより積算を行い、見積もり表を作成しPC能力も磨きます。	(株)城南サービス (有)カド照明設計研究所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「東京ガス 施設見学」(連携企業等: 東京ガス株式会社)
期間: 2月15日(木) 対象: 電子・電気科教員
内容: 東京ガス 新宿ショールームを見学。最新のガス機器、設備からガス熱源機、マイホーム発電など次世代のインフラ設備について技術見学を行い、省エネ、節電について実機を用いて説明を受けた。

研修名「これからの社会と産業の変化」(連携企業等: 株式会社城南サービス)
期間: 5月16日(水) 対象: 電子・電気科教員
内容: 近年注目されているAI、IOT、ビッグデータ解析力等の発展により産業構造の大変革が始まる。それによって電気業界の将来はどのように変化していくかについて、具体的な例を基に予測し、必要となる電気技術者像について講義を受けた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

講演会、模擬授業やアクティブラーニング等の研修を実施し、指導力の向上を図った。
・平成29年3月29日10:00～12:00 (株)KEIアドバンス様による非認知スキルの測定と現在の学生状況についての講演。
・平成29年8月1日実施 ①テーマ: 参加者の視点に立った効果的なプレゼンテーション ②テーマ: 学生を引きつける効果的な授業
(連携企業: 富士ゼロックス株式会社)
学生への教授法の情報共有化をすると共にすぐれた教授法を各学科より紹介し、勉強会を行った。
教員が富士ゼロックス社と行った共創プロジェクトでの研修を踏まえて、アイデアソンへの取り組み方やコラボレーションへの繋げ方を講義した。
また、各学科からも先進的な教授法や教育法の発表があり、様々研鑽を積む中で得られたIoT技術(電子・電気科)やタブレットを用いた授業法(自動車整備科)、品質管理への取り組み(応用生物学科)などの発表も同時に行われた。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「リコー環境事業開発センター見学」(連携企業等: 株式会社リコー)
期間: 31年2月27日(予定) 対象: 電子・電気科教員
内容: 環境技術の実証実験の場である、リコー環境事業開発センターにおいて、省資源、創エネルギー(再生可能エネルギー利用)、省エネルギーについて見学を行う。

研修名「KING SKYFRONT 見学」(連携企業等: 株式会社城南サービス)
期間: 12月(予定) 対象: 電子・電気科教員
内容: 羽田空港対岸に位置する国際戦略拠点となるKING SKYFRONT に進出している企業最先端技術を見学する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アクティブラーニング研修」(連携企業: アビット株式会社)
期間: 平成30年11月28日(水)または12月19日(水)
内容: アクティブラーニング型授業が求められている時代背景を把握し、アクティブラーニング型授業とは何か理解する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	IT企業等委員/ 卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興 協会)教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン 企業等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務 局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセ ンター長 進路指導副部長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL:http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_jikohyouka_neec.pdf

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_kankeishahyouka_neec.pdf

公表時期:2018年9月11日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/30_opendata_neec.pdf

授業科目等の概要

(工業専門課程 電子・電気科 電気工学コース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネススキル	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・後	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン1	就職に必要なマナーや一般常識などを学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ実習1	集中授業としてスキー、スノーボード教室等を実施します。	1・後	30	1			○		○	○		
		○	英語1	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			テクノロジー基礎1	テクノロジーの基礎知識や計算手法について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			サイエンス	サイエンスの知識として、物体の運動や力などについて学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			電気回路1	直流回路などの電気回路について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			電気回路2	交流回路の考え方、法則、計算方法などについて学びます。	1・後	60	4	○			○		○		
○			電子回路1	アンプなど電子機器の原理や動作について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			電磁気1	電界や磁界などについて学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			電磁気2	電磁誘導、インダクタンス、電磁波について学びます。	1・後	60	4	○			○		○		

○		電磁気測定 1	単位や電圧計・電流計など各種測定器、測定法などの基礎を学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○		電磁気測定 2	単位や電圧計・電流計など各種測定器、測定法などの応用を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
○		電気機器 1	電気機器の仕組みや動作原理、構造などについて学びます。	1・後	60	4	○			○		○		
○		モーターテクノロジー	モーターの動作原理や種類などの基礎技術から最新技術までを学びます。	1・後	30	2	○			○				○
○		シーケンス入門	信号機などに利用されている自動制御の基礎知識を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
○		デジタル回路 1	2進法や基礎論理回路、各種デジタル回路について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
	○	資格対策講座 1	第二種電気工事士、2級ボイラー技士など現場で役立つ実用資格を学びます。	1・前	30	2	○			○				○
	○	資格対策講座 2	危険物取扱者など現場で役立つ実用資格を学びます。	1・後	30	2	○			○				○
○		テクノロジー実習	電子・電気系の基礎技術に関する実験を行います。	1・前	60	2				○	○			○
○		基礎実験	電気回路の基礎や各種測定器などの電気技術に関する実験を行います。	1・後	60	2				○	○			○ ○
○		電気実習 1	屋内電気配線などの実習を行います。	1・後	60	2				○	○			○
	○	インターンシップ 1	企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。	1・通	30	1				○		○		○
○		キャリアデザイン 2	社会人として必要な知識や自己表現力などを学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
	○	スポーツ実習 2	スキー&スノーボード教室などを実施します。	2・後	30	1				○		○	○	

		○	英語 2	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の応用を学びます。	2・前	30	2	○			○							
○			発電技術	水力発電や火力発電、新エネルギーまでを学びます。	2・前	60	4	○			○							○
○			電気機器 2	モーターなどのパワーエレクトロニクスについて学びます。	2・前	30	2	○			○							○
○			電気法規	電気設備技術基準や電気事業法など電気に関する法律を学びます。	2・前	30	2	○			○							○
○			電気施設管理	電気設備を管理する上で必要な電力供給などについて学びます。	2・前	30	2	○			○							○
○			シーケンス応用	自動制御装置の設計法などについて学びます。	2・前	30	2	○			○							○
○			電気材料	絶縁材料や導電材料などについて学びます。	2・後	30	2	○			○							○
○			送配電テクノロジー	電気が送られる送電や配電などについて学びます。	2・後	60	4	○			○							○
○			通信システム 1	電気通信の基礎から通信品質や変調方式、光ファイバなどについて学びます。	2・前	30	2	○			○							○
○			通信システム 2	データ通信システムやオンライン処理、ネットワーク技術などについて学びます。	2・前	30	2	○			○							○
		○	照明デザイン	暮らしに必要な照明について、光源や照明の設計などについて学びます。	2・後	60	4	○			○							○
		○	鉄道技術	鉄道技術として、電車の仕組みや運行システムなどについて学びます。	2・前	30	2	○			○							○
		○	高圧電気技術	放電現象や落雷など高圧電気を安全に扱う技術について学びます。	2・後	30	2	○			○							○
		○	電気機器設計	電気機器である変圧器やモーターなどについて、その設計法を学びます。	2・後	30	2	○			○							○

		○ 電気設備	受電設備や空調システムなどを学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
		○ 電気応用	電池や蓄電池などについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
		○ 資格対策講座3	冷凍機械責任者など現場で役立つ実用資格を学びます。	2・前	60	4	○			○		○		
		○ 資格対策講座4	消防設備士など現場で役立つ実用資格を学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
○		電気実習2	屋内電気配線などの実習を行います。	2・前	60	2				○	○			○
○		電気応用実験1	モーターや送電システム、照明機器などについて実験します。	2・前	60	2				○	○			○ ○
○		電気応用実験2	発電機や自動制御システムなどについて実験します。	2・後	120	4				○	○			○
○		電気製図	電気機器や配線図などを製図します。	2・後	60	2				○	○			○
		○ インターンシップ2	企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。	2・通	30	1				○		○		○
合計					48	科目	2,100単位時間(120単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1,560時間(88単位)、選択科目210時間(14単位)以上を取得し、合計1,770時間(102単位)以上を取得すること。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																								
日本工学院専門学校	昭和51年7月1日	前野 一夫	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																								
学校法人 片柳学園	平成25年3月1日	千葉 茂	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111																																								
分野	認定課程名	認定学科名	専任	高度専任																																							
工業	工業専門課程	電子・電気科 電気工事コース	平成22年文部科学大臣 告示第153号	-																																							
学科の目的	常に新鮮なる人材を要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身に付け、職業人としての 自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を養成する。電気工事コースでは、経済産業省による第二種電気工事士及び総務省による工事担任者DD第二種の国家資格養成課程の認定を受けており、実務に関する知識、技術及び技能を教授し、現代の設計や施工分野で活躍するための人材を育成すること。																																										
認定年月日	平成26年3月31日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
2	昼	2070時間	1380時間	0時間	900時間	0時間	0時間																																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																						
240人	248人	18人	8人	14人	22人																																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定																																							
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月30日～9月2日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月18日～3月31日		卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。		課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有																																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) (株)ユアテック・日本電設工業(株)・(株)関電工・サンテック(株)等 ■就職指導内容 就職ガイダンス等において履歴書やエントリーシートなど就職受験書類添削の指導を実施。随時、個別面談を行う。 就職模擬試験(筆記試験)と模擬面接を実施。 ■卒業生数 115 人 ■就職希望者数 110 人 ■就職者数 110 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td>①</td> <td>34人</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td>③</td> <td>49人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>工事担任者DD2種</td> <td>①</td> <td>36人</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>電気工事施工管理技士</td> <td>②</td> <td>37人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>低圧電気取扱特別教育</td> <td>③</td> <td>37人</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>高圧電気取扱特別教育</td> <td>③</td> <td>36人</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>小型移動式クレーン特別教育</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>高所作業者運転技能講習</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>28人</td> </tr> </tbody> </table> 他 多数 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 「第10回若年者ものづくり競技大会 敢闘賞」				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	第二種電気工事士	①	34人	34人	第一種電気工事士	③	49人	26人	工事担任者DD2種	①	36人	36人	電気工事施工管理技士	②	37人	22人	低圧電気取扱特別教育	③	37人	37人	高圧電気取扱特別教育	③	36人	36人	小型移動式クレーン特別教育	③	30人	30人	高所作業者運転技能講習	③	31人	28人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																								
第二種電気工事士	①	34人	34人																																								
第一種電気工事士	③	49人	26人																																								
工事担任者DD2種	①	36人	36人																																								
電気工事施工管理技士	②	37人	22人																																								
低圧電気取扱特別教育	③	37人	37人																																								
高圧電気取扱特別教育	③	36人	36人																																								
小型移動式クレーン特別教育	③	30人	30人																																								
高所作業者運転技能講習	③	31人	28人																																								
中途退学の現状	■中途退学者 12名 ■中退率 4.5 % 平成29年4月1日時点において、在学者266名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者254名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。																																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 片柳学園創立70周年記念奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																										
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/technology/electronic/																																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																															
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 業界が求める人材像の把握と学生時代に習得すべき知識や技術を整理し、授業カリキュラムや授業・実習へ反映させる。																															
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。 本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。																															
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成30年4月1日現在																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>陣内 隆</td> <td>一般社団法人東京電業協会 豊国電気工業(株)</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>清水 誠一</td> <td>(株)協同技術センター</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>今井 忠由</td> <td>(株)京王設備サービス</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>遠山 一明</td> <td>日本工学院専門学校 副校長</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川村 公二</td> <td>日本工学院専門学校 科長</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>只埜 洋樹</td> <td>日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	陣内 隆	一般社団法人東京電業協会 豊国電気工業(株)	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①	清水 誠一	(株)協同技術センター	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③	今井 忠由	(株)京王設備サービス	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③	遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)		川村 公二	日本工学院専門学校 科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)		只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
名前	所属	任期	種別																												
陣内 隆	一般社団法人東京電業協会 豊国電気工業(株)	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①																												
清水 誠一	(株)協同技術センター	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③																												
今井 忠由	(株)京王設備サービス	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③																												
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)																													
川村 公二	日本工学院専門学校 科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)																													
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)																													
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>																															
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年度の開始時期、夏季休暇に開催 (年2回) (開催日時) 第1回 平成29年3月01日 14:00～16:00 第2回 平成30年8月31日 14:00～16:00 第3回 平成31年3月予定																															
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 企業等との連携により、電気工事士試験や職業実践に必要となる最新の知識、技術等を反映するため、企業等を含む教育課程編成委員会において、意見や提案を吸収し、電気工事実習やテクノロジー実習、各種実験など、関連科目のシラバス改善を定期的に実施している。 今回はJwcadの実習について、積算・見積もりの内容についてヒアリングを実施して今後の対応を検討。さらに、評価項目の見直しや教育設計図の達成目標の再検討を行い、次年度の授業に反映させている。 また、キャリアデザインにおいて、電気工事士だけでなくCADや電気工事施工管理(技士)などの重要性についての意識付けを強化して、学生指導に役立っている。																															
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																															
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 電気工事分野に関する実践的な実習や演習を行なうため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、又は技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。																															
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 委員の提案により、Jwcad実習の内容を見直し、課題設定の中で、従来よりも積算・見積もりに掛ける時間の割合を増加した。また、キャリアデザインの授業に於いて、電気工事士以外のCADや電気工事施工管理(技士)の仕事内容の説明をより具体的内容を盛り込む様に改善した。																															
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気工事実習1</td> <td>基本的な工具の使用法・電線の接続・加工方法。ケーブル配線工事・リモコン配線工事を第二種電気工事士の資格要件に即した内容で実習。</td> <td>有限会社常盤電設</td> </tr> <tr> <td>電気工事実習2</td> <td>基本的な工具の使用法・電線の接続・加工方法。金属製配管工事・合成樹脂配管工事を第二種電気工事士の資格要件を基礎に、実際に即した、実践的な内容での実習。</td> <td>有限会社常盤電設</td> </tr> <tr> <td>電気工事実習3</td> <td>高圧受電設備を想定した応用実験・実習を中心に実践に即した内容をグループ単位で行う。</td> <td>若島電気商会</td> </tr> <tr> <td>電気工事実習4</td> <td>複合工事実習を中心に実践に即した内容をグループ単位で行う実習・実験</td> <td>若島電気商会</td> </tr> <tr> <td>テクノロジー実習</td> <td>電気・電子回路で使用する基礎構成部品について学び、回路計を製作しその使い方を実習する。</td> <td>岡田電気安全コンサルタント事務所</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	電気工事実習1	基本的な工具の使用法・電線の接続・加工方法。ケーブル配線工事・リモコン配線工事を第二種電気工事士の資格要件に即した内容で実習。	有限会社常盤電設	電気工事実習2	基本的な工具の使用法・電線の接続・加工方法。金属製配管工事・合成樹脂配管工事を第二種電気工事士の資格要件を基礎に、実際に即した、実践的な内容での実習。	有限会社常盤電設	電気工事実習3	高圧受電設備を想定した応用実験・実習を中心に実践に即した内容をグループ単位で行う。	若島電気商会	電気工事実習4	複合工事実習を中心に実践に即した内容をグループ単位で行う実習・実験	若島電気商会	テクノロジー実習	電気・電子回路で使用する基礎構成部品について学び、回路計を製作しその使い方を実習する。	岡田電気安全コンサルタント事務所										
科目名	科目概要	連携企業等																													
電気工事実習1	基本的な工具の使用法・電線の接続・加工方法。ケーブル配線工事・リモコン配線工事を第二種電気工事士の資格要件に即した内容で実習。	有限会社常盤電設																													
電気工事実習2	基本的な工具の使用法・電線の接続・加工方法。金属製配管工事・合成樹脂配管工事を第二種電気工事士の資格要件を基礎に、実際に即した、実践的な内容での実習。	有限会社常盤電設																													
電気工事実習3	高圧受電設備を想定した応用実験・実習を中心に実践に即した内容をグループ単位で行う。	若島電気商会																													
電気工事実習4	複合工事実習を中心に実践に即した内容をグループ単位で行う実習・実験	若島電気商会																													
テクノロジー実習	電気・電子回路で使用する基礎構成部品について学び、回路計を製作しその使い方を実習する。	岡田電気安全コンサルタント事務所																													

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

企業主催又は業界団体主催の電気工事競技会、セミナーに参加し、技術動向を確認した。
 平成29年7月26日：株式会社ユアテック「新入社員研修結果発表会」及び、企業内研修設備の見学会に参加・意見交換
 平成29年8月3・4日：第12回若年者ものづくり競技大会、電気工事部門へ学生が参加、特別賞を受賞
 平成29年10月18日：平成29年度「技術・技能競技大会」(於 牛久市関電工人材育成センター) 見学
 平成29年11月7日：第51回電気工事士技能競技大会(於 東京武道館) 見学

② 指導力の修得・向上のための研修等

講演会、模擬授業やアクティブラーニング等の研修を実施し、指導力の向上を図った。
 ・平成29年3月29日10:00～12:00 (株)KEIアドバンス様による非認知スキルの測定と現在の学生状況についての講演。
 ・平成29年8月1日実施 ①テーマ：参加者の視点に立った効果的なプレゼンテーション ②テーマ：学生を引きつける効果的な授業
 (連携企業：富士ゼロックス株式会社)
 学生への教授法の情報共有化をすると共にすぐれた教授法を各学科より紹介し、勉強会を行った。
 教員が富士ゼロックス社と行った共創プロジェクトでの研修を踏まえて、アイデアソンへの取り組み方やコラボレーションへの繋げ方を講義した。また、各学科からも先進的な教授法や教育法の発表があり、様々な研鑽を積み重ねて得られたIoT技術(電子・電気科)やタブレットを用いた授業法(自動車整備科)、品質管理への取り組み(応用生物学科)などの発表も同

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年8月1・2日：第13回若年者ものづくり競技大会、銅賞を受賞。企業技術指導員と指導方法について意見交換を行う。
 平成30年10月17日：平成30年度「技術・技能競技大会」(於 牛久市関電工人材育成センター) 見学。配管工事について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アクティブラーニング研修」(連携企業：アビット株式会社)
 期間：平成30年11月28日(水)または12月19日(水)
 内容：アクティブラーニング型授業が求められている時代背景を把握し、アクティブラーニング型授業とは何かを理解する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	IT企業等委員/ 卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会)教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン 企業等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセンター長 進路指導副部長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_jikohyouka_neec.pdf
http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_kankeishahyouka_neec.pdf
 公表時期：2018年9月11日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/30_opendata_neec.pdf

授業科目等の概要

(工業専門課程 電子・電気科 電気工事コース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネススキル	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・後	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン1	就職に必要なマナーや一般常識などを学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ実習1	集中授業としてスキー、スノーボード教室等を実施します。	1・後	30	1			○		○	○		
		○	英語1	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			テクノロジー基礎1	テクノロジーの基礎知識や計算手法について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			サイエンス	サイエンスの知識としての物体の運動や力などについて学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			電気回路1	直流回路などの電気回路について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			電気施工方法1	電気配線の施工方法の基礎知識を学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
○			電気機器1	電気機器の仕組みや動作原理、構造などについて学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
○			電気工事材料・工具	電気工事における材料や器具、工具について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			電子回路1	アンプなど電子機器の原理や動作について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		

○		キャリアデザイン2	就職に必要なマナーや一般常識などを学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
	○	スポーツ実習2	スキー&スノーボード教室などを実施します。	2・後	30	1			○	○	○		
	○	英語2	英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の応用を学びます。	2・前	30	2	○			○		○	
○		通信システム1	電気通信の基礎から通信品質や変調方式、光ファイバなどについて学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
○		通信システム2	伝送理論の基礎から電気通信回線の構成や電気通信技術などについて学びます。	2・前	30	2	○			○	△	○	
○		高圧電気技術1	自家用電気工作物の受電設備などについて学びます。	2・前	90	6	○			○		○	
○		高圧電気技術2	自家用電気工作物の電気設備全般などについて学びます。	2・前	60	4	○			○	○		
	○	施工管理技術	電気工事施工計画の作成や安全管理などについて学びます。	2・後	60	4	○			○	△	○	
	○	積算	電気配線の設計・積算から見積書の発行などについて学びます。	2・後	60	4	○			○	○		
○		IP基礎	インターネットで使われているIP技術の基礎を学びます。	2・後	30	2	○			○	○	△	
○		セキュリティ基礎	ウイルス対策など、パソコンを安全に利用するために必要なセキュリティ技術を学びます。	2・後	30	2	○			○	○	△	
○		ネットワーク基礎	LAN配線などのネットワーク技術の基礎を学びます。	2・後	30	2	○			○	○	△	
○		ネットワーク接続	LAN配線や通信ネットワーク接続技術などについて学びます。	2・後	30	2	○			○	○	△	
○		通信法規	電気通信事業法などの法令について学びます。	2・後	60	4	○			○	○	△	

○	資格対策講座 1	第一種電気工事士などの国家試験対策講座を実施します。	2・前	30	2	○			○									
○	資格対策講座 2	電気・通信などの国家試験対策講座を実施します。	2・後	30	2	○			○									
○	ネットワーク 実習	LAN配線やネットワーク設備に関する実習を行ないます。	2・後	30	1				○	○				○				
○	第一種電気工 事士実技	第一種電気工事士に必要な電気配線工事に関する技術を実習します。	2・後	60	2				○	○							○	○
○	電気工事実習 3	光接続技術や電気配線工事などについて実習します。	2・前	60	2				○	○							○	○
○	電気工事実習 4	電気通信配線工事などについて実習します。	2・前	60	2				○	○							○	○
○	屋内電気配線 CAD	屋内電気配線を中心に情報ネットワーク配線についてCADソフトを利用して実習します。	2・後	60	2				○	○							○	○
○	インターン シップ2	企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。	2・通	30	1				○		○						○	
合計				43科目		2,280単位時間(120単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1,860時間(98単位)、選択科目210時間(12単位)以上を取得し、合計2,070時間(110単位)以上を取得すること。	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。